

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	和泉ここわ保育園
法人名	株式会社ディアローグ
法人所在地	東京都渋谷区渋谷3-8-12 渋谷第一生命ビルディング7階

1. 活動のテーマ

<テーマ>

当園が開園以来継続して行っている教育活動の中の【英語】を活かしながら【ことば】についての探究活動を実践し、非認知能力の向上等の保育内容の充実を図ります。2025年度はことばの中でも英語と日本語の擬音語に注目をします。

<テーマの設定理由>

当園は開園以来、外国人英語講師が週2日来園し、レッスンでは保育者も生徒として園児と一緒にレッスンを受け、保育者も園児も英語は身近なことばとして存在しています。2024年度は子どもたちが同じ絵本、同じメロディの歌を日本語と英語で体験、体感することで、ことばに対する興味が拡がりました。2025年度は子どもたちがさらに主体性を持って活動するように、ことばの中でも英語と日本語の動物の鳴き声などの擬音語に注目しようと考えました。

2. 活動スケジュール

【問いかけ】 保育者が動物の鳴き声について問いかけました。「この動物はなんて鳴くか知っている?」「動物園で何て鳴いていたか聞いたことがある?」「クレア先生は英語の先生だけれど、英語でも同じ鳴き声なのかな?」子どもたちは、「クレア先生は、英語しか話せないんだよ。でも動物の鳴き声は同じだよ。」「英語と日本語だと動物の名前が違うから、きっと鳴き声も違うんだよ。」日本語と英語は違うことばということは理解しているようです。

【流れ】 英語講師の来園日には、英語で動物の鳴き声の入った歌を歌ったり、動物以外の擬態語や擬音語の入った英語絵本の読み聞かせなどを行い、保育者は子どもたちと一緒に参加します。また自由遊びの時間に保育者が日本語で動物の鳴き声の入った歌を歌い、英語講師は子どもたちと一緒に参加します。

【探究活動の実践と記録】 英語活動の際には保育者が記録し、日本語活動の際には保育者ととも英語講師も記録し、特に子どもが英語を発している際のことばや音の聞き分けを担当しました。

* 読み聞かせ：4, 5歳児クラス

* 歌：3, 4, 5歳児クラス

* カード遊び：4, 5歳児クラス

* 英語で工作：4, 5歳児クラス

【振り返りや共有】 毎月月末に英語講師と職員のブリーフィングをおこなっているので、そこで探究活動の共有を行い、次月の問いを考え環境設定や探究活動のスケジュールを話し合います。保育者同士は職員会議で振り返りや共有を行います。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【環境設定】 英語講師の来園日に探究活動を行うよう環境を設定しました。

【素材】

* 同じメロディの日本語と英語の歌：「ゆかいな牧場」と"Old McDonald had a farm"

* 絵カード：動物、乗り物、食べ物

* 英語のオノマトペ絵本："Mr. Brown can moo"

* 2024年度に使用した英語の絵本："The very hungry caterpillar","Today is Monday"



4 -①. 探究活動の実践（日本語）

<活動の内容>①「ゆかいな牧場」を保育者が日本語で歌う。英語講師も同席して一緒に聞く。

3、4、5歳児クラス合同

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

◎保育者が『ゆかいな牧場』を日本語で歌い出すと『何の歌?』『この歌聞いたことがあるよ』という声があがる。様々な動物が出てくることを知ってる子は『次何の動物かな?』と興味を示す。聞き覚えのある動物の鳴き声が歌の中で流れても、気にとめる様子は見られない。

4-①. 探究活動の実践（英語）

<活動の内容>①「ゆかいな牧場」と同じメロディ"Old McDonald"を英語で歌う。英語のオノマトペの絵本"Mr.Brwon can say moo!"を英語講師が読み聞かせる。

3、4、5歳児クラス合同

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

◎活動の内容

- ・「ゆかいな牧場」と同じメロディ"Old McDonald"を英語で歌う。
- ・英語のオノマトペの絵本"Mr.Brwon can say moo!"の読み聞かせを聞く。

◎活動中見られた子どもの姿

- ・歌は日本語も英語も歌う児は少なかったが、リズムは覚えているようで口ずさむ様子がある。
- ・絵本を通して、英語と日本語で鳴き声が違う動物がいることに気付く。
- ・「なんで鳴き声が違うんだろうね」と話す児がいる。

◎保育者との関わり

- ・「にわたりの鳴き声は何？」と尋ねると「コケッコー！」と日本で親しまれる擬音語で答える児が多い。「英語だとなんだっけ？」と尋ね直すと「なんだっけ」「クックドゥー？」と考える様子が見られる。



5-①. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】2024年度からの続きで、同じメロディを日本語と英語で歌ってみることで、違っている部分や、同じ部分を子どもたちが気づくようになってきた。動物の鳴き声を日本語と英語で比較してみたり、どのようなオノマトペがあるのか、それは日本語と英語でどのように違うのかなど、英語と日本語の違いに興味を持つ場面が増えてきた。

【次回への問い】英語のレッスンで使用しているカードをレッスンで使う場合と、自由遊びの中で同じカードを使うことで、子どもたちは英語をより発するようになるのか、またどのようにカードを使って活動するのだろうか？

4-②. 探究活動の実践（英語絵カードを英語レッスン中に使う）

<活動の内容>②英語レッスン中に"Animal"(動物)の英語絵カードを使う

4歳児クラス

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

◎活動の内容

・動物のイラストカードを見て、名称を英語で答える。

◎活動中見られた子どもの姿

・元々知っている動物は英語で答える。（犬、象、蝶々など）

・日本語と同じ読み方の動物は、講師の発音を聞いてよく模倣していた。（パンダ、コアラなど）

・聞きなれない単語は「分からない」「うーん、キツネ？」と戸惑っていた。何度か講師の模倣で復唱することで、その場で覚えて答えられる児も出てきた。（キツネ、牛、羊など）

・何度かフラッシュカードのようにめくったものを答えることで、月の後半にはきちんと覚えて答えられる児も出てきた。

◎保育者との関わり

・分からない単語に対し、最初の文字をヒントとして伝えることで答える様子が見られた。

・保育者の「どの動物が好き？」の問いに対し、英語レッスン中だと「dog!」「shark!」等英語で答える姿が多い。レッスンで習っていない動物（バク、カバなど）は日本語で答える。レッスン以外の時間に同様の質問をすると、「犬!」「鮫!」等日本語で答えていた。

・「この動物はなんていう鳴き声だっけ？」と問いかけると、前回絵本で見た鳴き声は覚えていないようで、日本語で答える姿が多い。



4-②. 探究活動の実践（英語絵カードを自由遊び中に使う）

<活動の内容>②自由遊び中に"Animal"(動物)の英語絵カードを使う。(子どもたちがどのように見立て遊びをするのか、また英語で使っているカードなので、レッスンではなくても英語で言うのか。また英語講師同席の場合と、そうでない場合の遊び方にも違いが出てくるのかなど)

4、5歳児合同クラス：

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

◎活動内容：英語の活動で取り入れている動物絵カードを自由に遊びの中に取り入れる
◎活動中に見られた子どもの姿：よく知られたブタや馬の動物絵カードを手にした時は英単語で『Pig』『horse』『dog』と動物名を言ったりしていたが、ヤギ等あまり生活で耳にしない動物カードは『やぎ』と日本語で友達とやりとりしていた。カードを片手に互いに手持ちの絵カードの動物の鳴きまねをする姿が見られたが、英語で『pig』『horse』『dog』と言っていた動物でも『ブーブー』『ヒヒーン』『ワンワン』等と鳴きまねは普段日本語で耳にする鳴き声を模倣していた。『キャンキャンって鳴く時もあるよ』鶏カードを手にした子は『英語でなんだっけ?』『ケンタッキーみたいだね』と言う児もいた。
◎保育者との関わり：同じ動物でも色々な鳴き方をすることに気づいた子どものつぶやきをキャッチし、『本当だね』『英語の先生にも今度教えてみようか?』と次の発見に繋がるよな声掛けを心がけた。

5-②. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】元々知っている単語は自信を持って答える姿があり、乳児期から継続したレッスンの成果が伺える。聞き馴染みのない単語も、講師の発音をよく聞き模倣することで、月末には覚える姿が見られた。鳴き声への意識は薄いですが、アプローチ次第で興味を示し身についていくと感じる。
動物絵カードを自由に遊ぶ中で日本語でも犬等『ワンワン以外にもキャンキャンやクーン、キャイン、ヴーゥ等』場面や状況によって様々な鳴き声があることに気づき、自然と様々な鳴き声を口にする様子が見られた。
日本で耳にする鳴き声も様々なことから、英語でも違う鳴き声になるのだろうか?と深めていけるように、工夫していく。
【次回への問い】英語絵カードを違う種類にすることで、動物の鳴き声ではなく、また違う擬音語に子どもたちはどのように気づき反応するだろうか?

4-③.探究活動の実践（英語絵カードを自由遊び中に使う）

<活動の内容>③自由遊び中に"Vehicle"(乗り物)の英語絵カードを使う

3, 4, 5歳児クラス:

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

◎活動内容：遊びの中で乗り物の絵カードを使う

◎活動中の子どもの姿：『これ英語でbusだよ』boatの絵カードを手にし『ボートだよ』『日本語と英語同じだけど、ちょっと違う?』planeの絵カードを取り、『これは英語で何て言うか知らない』train絵カードを見て『ポッポー』『ガッタンゴットン』と乗り物の音を他児と話始める。Carの絵カードを取り『ブーブー』helicopterの絵カードを持っていた子は『プルプルプル』と飛んでいく音を口していた。

◎保育者との関わり：『日本語と同じ言い方と違う英語があるね』『busやboat以外にも英語と同じ日本の物はあるのかな?』と日本の生活に入っている英語があることに気づくきっかけになるような働きかけを心がける。また、乗り物の音は子どもたちが発していた音と同じか違うのか、興味を持つきっかけになるように心がけた。

4-③. 探究活動の実践（英語絵カードを英語レッスン中に使う）

<活動の内容>③英語レッスン中に"Vehicle"(乗り物)の英語絵カードを使う

4歳児クラス

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

◎活動の内容

乗り物絵カードを見て名称を答える。

◎活動中見られた子どもの姿

- ・絵カードを見るとすぐに「car」「bus」等単語を答える。
- ・バス、トラック等英語と日本語で同じ表現をする材は、英語寄りの発音で話す姿が見られた。

◎保育者との関わり

・動物カードの時のように保育者がヒントを与えなくても名称を英語で答えることができていく。



5-③. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】 普段はカタカナ英語の発音で話す言葉も、英語の時間や講師との会話の中では英単語の発音で話す姿が見られた。乗り物を表す動きがつくことで、聞きなれない言葉も身に着くのが早いように感じる。

自由遊びで子どもたちが発していた乗り物の音が英語講師が発していた音と違うことに気づく。『えー！』『何で違うんだろう？』と不思議そうに感じている児もいた。

【次回への問い】 幼児クラスは英語で工作の時間があり、英語レッスンで学んだ単語にちなんだ工作を毎月行っています。英語で工作の時は英語講師が英語で説明し、保育者も日本語通訳をせず、工作の見本を一緒に作りながら参加し、子どもたちを手伝います。2024年度に読んだエリックカールの絵本"The very hungry caterpillar"と"Today's Monday"を再度英語で読み返し、子どもたちが主体的に、自分の「1週間なにを食べる表」を制作してみてもどうか？ 工作を通して、食べ物の擬態語、擬音語への興味も深まっていくのではないかな？

4-⑤. 探究活動の実践（英語で工作）

<活動の内容>①The Very Hungry Caterpillar、と Today Is Mondayの英語の読み聞かせを行い、その後自分の「1週間なにを食べる表」を制作する。

4, 5歳児クラス

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

◎活動の内容

さまざまな食材イラストから好きなものを複数選び、講師から受けりシートに貼って1週間の食事表を完成させる。

「Can I have ○○ please. (Here you are.) Thank you.」でやりとりを繰り返し行う。

◎活動中見られた子どもの姿

- ・講師の説明（英語）で何を行うのかを理解し、活動に取り組む。
- ・「Can I have～」のやりとりをスムーズに行う。食材の名称もほとんどの児が英語で伝えられていた。

- ・「野菜を多めにしてヘルシーにしよう」「フルーツいっぱいになりたいな」「サンデーは何にしようかな」等自然と会話の中で英語を使う姿がある。

- ・トマト、ケーキ等英語と日本語で同じ表現をする食材は、英語寄りの発音で話す姿が見られた。

- ・Today Is Mondayのリズムに合わせて自分のメニューを歌う発表は緊張してしまう児が多かった。

◎保育者との関わり

- ・一緒に制作する保育者に対し「先生は何にするの?」「ピザ一緒だね!」等問いかけや会話を楽しむ。



5-⑤. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】

- ・食材の英単語に関しては覚えているものが多く、コアタイム中は発音も英語寄りになっている為、使い分けができていたと感じた。
- ・クラフトタイムの度に繰り返し行なっている「Can I have～」のやりとりが身についてきている。
- ・食事の擬音語に対してはまだ興味や意識が薄い様子がある。

【次回への問い】 子どもたちはことばには日本語も英語もあり、またそれ以外に様子を表す擬態語や擬音語もあって、しかもそれらにも日本語や英語特有の音があることに気づいたかもしれない。また園には日本語や英語以外のことばを話す友だちもいることから、日本語英語以外の世界についても興味を持ち探究活動が広げられるのではないか。